



「当別文芸の会」

ひがしまえ かんじ
代表 東前 寛治 さん

今回は、文芸誌「当別文芸」を発行する「当別文芸の会」代表の東前寛治さん（スウェーデンヒルズ在住）にお話をお聞きました。

町の歴史にも精通

出身は富良野市。後志管内で小学校の教員を約40年勤め、定年退職とともに当別にやってきました。それからほどなくして、「当別歴史ボランティアの会」に入会。元々歴史が好きで、教員時代には転勤がある度に、その土地の歴史を調べるようにしていました。現在もアドバイザーとして活動を支援しており、昨年11月に行われた「当別歴史講演会」では講師を務めました。

歴史ボランティア活動の縁で、前代表の河地良一さんに誘われ、「当別文芸の会」に入会。設立当初の会員ではありませんが、文芸誌「当別文芸」の創刊号から発刊に携わり、自らも寄稿しています。

読書の偏食をなくす

当別文芸の会は、北海道にゆかりのある作品をはじめ、広く日本や世界の文学作品を読み、文芸の裾野を広げることを目的として活動する町民サークルです。河地さんが中心となって発足し、今年で13年目を迎えます。現在は16名の会員がおり、月1回例会を開催して顔を合わせています。

例会で行われる「読書会」では、課題の本を読み、感想を語り合うことで作品の理解を深めます。当初は北海道の文学作品を読むことが多かったのですが、最近は直木賞など、今話題の作品も取り上げるようになりました。自分では選ばない本を読む機会や、他の人のユニークな感想が聞け、毎回新たな発見があります。他にも講師を招いて講演していただく「文学セミナー」や、文学作品の聖地を巡る「文学散歩」などを行い、会員同士の親睦を深めています。

↑文芸誌「当別文芸」

年1回発行（最新刊は第11号）。随筆や自分史、評論、小説、詩、短歌、俳句など、多種多様な作品が掲載されています。

文芸誌「当別文芸」に掲載されている作品は、町民や当別にゆかりのある方から寄稿していただいています。毎回欠かさず執筆することが生きがいとってくださる方もいます。埋もれている作品を発掘し、一つの本にまとめて後世に書き記すことは、資料的にも大変有益なことなので、今以上に質量ともに高めていきたいです。

後世へ文化を繋ぐ

昨年から当別文芸の会の代表を務めていますが、当別に縁もゆかりもない私が代表というのは違和感を覚えます。河地さんの退任に伴い、会の活動を停止する話もありました。町の文化活動の火を消してはならないという使命感から代表を引き受けましたが、やはり文化は地元の人々が中心となって創っていくべきものだと私は考えます。もっと多くの方に会を認知してもらい、活動に参加してもらうことで、次の世代へ橋渡しができると思います。

「当別文芸の会」の活動に参加してみませんか？

会員になって読書会などのサークル活動はもちろん、会員以外の方でも文芸誌「当別文芸」に寄稿できます。興味を持たれた方はお気軽に問合せください。

▼問合せ 当別文芸の会・東前 (☎ 26 - 3071 / E-mail : rapsap@muse.ocn.ne.jp)